

安下庄小学校児童が丸太でコースター・竹で箸と器づくりを体験

令和5年12月11日(月)に周防大島町立安下庄小学校で、3、4年生の児童11名が丸太でコースターや竹で箸と器づくりを体験しました。

これは、次代を担う子どもたちに、森林の大切さやふるさとの林業の重要性を体感し、理解を深めてもらうことを目的に、林業研究グループ「柳井ふれあい森の会」(会長:山重義則)が「森林体験学習」として行ったものです。

はじめに、山重会長から、森林は水をたくわえ、山が崩れるのを防いでいるなど森林のはたらきの説明を聞いた後、3年生は竹で箸と器づくり、4年生は丸太でコースターづくりを会員の指導を受けながら開始しました。それぞれ終わった後に交代して児童全員が丸太コースターと竹の箸、竹の器を作りました。

竹の器は、節の部分を底にのこぎりで竹を切り、切り口の部分を紙やすりで滑らかにしました。竹の箸は、会員が手伝って竹をナタで割り、紙やすりで角を滑らかにしました。竹は割れ目を入れたら簡単に割ることができることを教わり、児童たちは感心していました。初めて竹を切る児童やまっすぐに切れず切り口が斜めになる児童もいましたがみんな自分の器や箸を作ることができました。

次に丸太コースターは、のこぎりで小径木を1cm厚程度に切り、切り口を紙やすりで滑らかにしました。こちらまっすぐに切れず厚くなったり斜めになったりしていましたが、何回か挑戦してうまくできた児童もいました。

最後に学年対抗で、全員が早く切り終わった方が勝ちの丸太切りリレー競争をしました。上級生の4年生が1人多かったですがハンディとして、丸太径はほぼ同じでスタートしました。みんな「頑張れー、あともう少し」と大きな声で同級生を応援していました。3年生が先行していましたが、最後の1人で4年生が追い抜き上級生の面目を保ちました。

勝った4年生の代表には、山重会長から竹で作った竹けん玉が贈呈されて体験学習は終わりました。

柳井ふれあい森の会では、今後も森林資源を活かして、地域の子どもたちへ森林に対する意識を高める取組を行うこととしています。



竹の箸づくりに挑戦



丸太切り競争